

「OTC医薬品」を活用しましょう

いままで、薬局・薬店で売られてきた「一般用医薬品」は医療用の医薬品と区別するためのなのでしょう、永い間「大衆薬」または「市販薬」と呼ばれてきました。

しかし最近「一般用医薬品」「大衆薬」「市販薬」を統一して「OTC医薬品」と呼ぶようになったようです。

「OTC医薬品」のOTCは「Over The Counter」のOとTとCの頭文字を略したものです。コンビニエンスでタバコを買う時と同じで、例えば、客はカウンター越しに『マイルドセブン』1カートンと注文します。店員さんは、お客さんの様子、話し方、などを見て20歳過ぎた大人で善良な市民であることを確認したうえで商品をお渡しするわけです。

ワイズが薬局薬店で情報の仕込みをしているときこんなことがありました。

薬局の近所の料理屋さんで働いているらしい「板前さん」が青白い顔をして、暑くもないのに額から汗をだらだら流しながら「咳止めドリンク」（実際は商品名を名指し）を「10本くれ！」と買いに来ます。様子は尋常ではありません。目がキラキラと濡れているように光っています。薬局の店員さんは「一昨日買っていった分はもう飲んでしまったのですか？」と苦笑い。薬

剤師は私の方を気にしながら、あんまり「咳止めドリンク」ばかり売っていると「保健所から怒られちゃうよ」と困った様子。その客が帰った直後「ワイズさん、うちも売りたいくないので断ったことは何度もあるんですよ。しかし、同じことなんですね。近くの薬屋をぐるっと回って10本20本と買い集めてしまう、らしいんです。

この板前さん、なぜ「咳止めドリンク」ばかりを買い集めてるのでしょうか？「答えは簡単」、いわゆる“麻薬中毒”のお客さんなのです。

「咳止めドリンク」には「リン酸ジヒドロコエデイン」「dl-塩酸メチルエフェドリン」など強力な鎮咳作用のある成分があります。咳止めに効く成分はケシから抽出するアヘン、麻薬成分のコデインが有名です。コデインはモルヒネと同じ基本構造を持ち作用も似ています。モルヒネはケシからとったアヘンに含まれるアルカロイド成分です。コデインやジヒドロコデインは習慣性、耽溺性はモルヒネより弱いので「OTC医薬品」としてつかわれます。

日本ではコデインを還元して製造したジヒドロコデイン(dihydrocodeine)を鎮咳薬とし、単体でドリンク、風邪薬に配合するのが一般的です。

現在、わが国に置けるアヘンの用途は大半がモルヒネを原料にしてジヒドロコデインをつくり「鎮咳薬」のジヒドロコデインを製造するために使われているようです。コデインやジヒドロコデインは妊娠中の女性が摂取すると、胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られています。また、コデインやジヒドロコデインは、いずれも母乳中にもみいだされると、いいます。

もちろん、用法、用量を守って使用している分には何も心配はないのですが、先ほどの板前さんのように、「咳止め薬」を異常に愛用するようなことがあると心配です。

OTC医薬品の役割は

現代は自分の健康は自分で守る

「セルフメディケーション」の時代です。

「OTC医薬品」はいろいろな疾病や症状の改善に効果を発揮します。「すぐに病気だ！」とパニックに陥ることなく「国民医療費のムダ使い」をせずに、自分の健康は自分自身で管理し、軽い病気の症状緩和などは「OTC医薬品」を上手に活用して自分で治しましょう。

そのためには、日頃から「家庭の医学」などをよく読み、新聞・雑誌などの健康分野の記事をスクラップしておくなど、常に健康に関心を持つようにしましょう。

OTC医薬品を上手に使うために

これも難しいことではありません。

病気のことを良く調べ、「OTC医薬品」のことを良く知れば、上手な使い方が自然

に分かってきます。分かり難いことがあったら薬局に薬剤師の方がいますから、気軽に声をかけて“専門的なお話”を聞けばよいのです。調剤薬局など医師の処方箋をもっぱらに扱うところは敷居が高くて声をかけにくいところがほとんどですが、街中にある、いわゆる「クスリ屋さん」には薬剤師の先生がいて、店員さんと同じように気さくに相談に乗ってくれます。ここで注意をしたいのは、白衣を着ていても雑貨を中心に販売しているところは薬店であって薬局ではありません。テレビ宣伝をしている有名なメーカーのトイレタリー製品をたくさん扱っていても雑貨中心のところは薬剤師は置いていないようですのでご注意ください。「こちらは、薬局ですか、薬店ですか」と率直に聞いてしまうか、「相談したいことがあるので薬剤師の方をお願いします」と言ってしましましょう。これは、ワイズ編集部「驚きの体験」ですが、錦糸町の駅ビルに入っている「マツモトキヨシ」は白衣を着ている30代後半の店員でも「ビタミン剤レベル」の知識すらなく、呆れました。こういうところは薬品のスーパーなのでしょう、お客さんも化粧品や雑貨をかってにカゴに入れ、キャッシャーへ並んでいます。厚生労働省や保健所はこういうお店をもっと厳しく指導してくれないと、「セルフメディケーション」は、すみません。

読者の皆さんも気がついたことがあったら「保健所にメールを送る」とか、何らかの行動を起こさないと社会は一向に良くなりませんので、貴方の貴重なご意見を日本の未来のために活かしましょう。